

第2章 津久見市の文化財の概要

第1節 指定等文化財

(1) 指定等文化財の件数

本市の指定文化財は、令和7年（2025）8月末時点で42件である。その内訳は国指定1件、県指定5件、市指定36件である。

類型別では、有形文化財が23件と最も多く、次いで記念物10件、民俗文化財9件となっており、無形文化財の指定、文化的景観、伝統的建造物群、文化財の保存技術の選定はない。

表6 津久見市の指定等文化財の件数

種別	国			県	市	総計
	指定・選定	選択	登録	指定	指定	
有形文化財	0	—	0	1	22	23
建造物	0	—	0	1	10	11
美術工芸品	0	—	0	0	1	1
絵画	0	—	0	0	0	0
彫刻	0	—	0	0	0	0
工芸品	0	—	0	0	0	0
書跡・典籍	0	—	0	0	0	0
古文書	0	—	0	0	6	6
考古資料	0	—	0	0	1	1
歴史資料	0	—	0	0	4	4
無形文化財	0	0	0	0	0	0
民俗文化財	0	0	0	2	7	9
有形の民俗文化財	0	—	0	0	1	1
無形の民俗文化財	0	0	0	2	6	8
記念物	1	0	0	2	7	10
遺跡	0	—	0	0	1	1
名勝地	0	—	0	0	0	0
動物、植物、地質鉱物	1	—	0	2	6	9
文化的景観	0	—	—	—	—	0
伝統的建造物群	0	—	—	—	—	0
総計	1	0	0	5	36	42

0：該当なし、—：制度なし

※令和7年（2025）8月末時点での数値

(2) 指定等文化財の概要

①有形文化財

建造物は11件（県指定1件、市指定10件）と最も多い。県指定文化財である長幸無縫塔2基は凝灰岩製の重制無縫塔である。それぞれ「天正三年」（1575）、「天正六年」（1578）と造立された年号があり、刻まれた戒名は、臼杵の宝岸寺の過去帳（「宝岸寺霊簿」）や江戸時代の臼杵藩士吉水家の文書（「転并類族書出」）から吉水氏の墓であることが分かった。戒名に「宗」の一字が使われているところから、いずれも被葬者は大友宗麟に仕えた武士であった可能性が高く、宗麟が隠居する前の津久見の歴史を考察するための資料として価値が高い。

市指定有形文化財10件の建造物のうち、木造物は大正5年（1916）に建てられた赤八幡社楼門（宮本町）のみで、市内最大の木造建造物である。残りの9件は石造物である。このうち在銘のものは村上神社宝篋印塔（文安6年（1449））・道尾石幢（文明9年（1477））・鬼丸板碑（元和10年（1624））・海徳寺の魚鱗塔（延享4年（1747））で、道尾磨崖五輪塔17基のうち3基に、慶長2年（1597）、寛永12年（1635）の年号が判読できる。

そのほかは無銘ではあるが、室町期の造立と考えられる世尊寺五重塔・川内石幢・久保泊石幢（年号部分欠落）と江戸時代造立の長野の道標が所在する。



長幸無縫塔（中田長幸）



赤八幡社楼門（宮本町）



道尾石幢（上青江道尾）



世尊寺五重塔（井無田町）



久保泊石幢

絵画は1件（市指定のみ）で、蓮照寺所蔵の「臼杵藩領津久見絵図」は、弘化4年（1847）に製作された海岸絵図で、臼杵藩領であった楠屋（岬）から警固屋までの下浦地域の海岸線を主に描き込んだものである。

歴史資料4件は全て市指定で、まず津久見市所蔵南蛮資料36点、太平洋セメント株式会社所蔵南蛮資料2点は、いずれも宗麟が生きた時代、安土桃山時代から江戸時代初期にかけて隆盛した南蛮文化、南蛮趣味の広がりを知る上で貴重なものである。内訳は、本市が所蔵する資料として絵画（読書する修道士のいる西洋風俗図・航路図屏風）2点や南蛮輸出漆器（蒔絵螺鈿花鳥文筆筒ほか）9点、南蛮趣味の工芸品（織部煙管、象嵌南蛮人文鏡ほか）15点、書籍・地図9点、鉄砲1点、太平洋セメント株式会社が所蔵する資料として南蛮人遊楽図屏風、蒔絵螺鈿聖者像聖籠各1点となっており、安土桃山時代から江戸時代初期にかけて南蛮貿易を行っていた時期のものである。

近現代の資料は、「二村薫調査記録」と「堅徳小学校青い目の人形 人形名：メリー」がある。二村薫調査記録は、青江地域を中心に調査・研究をした郷土史家の二村薫（畑出身）がまとめた研究資料で、明治末期から大正にかけての青江地域の自然や歴史、文化を総合的にまとめた「郷土資料」（大正14年（1925））のほか、みかんの栽培法やその歴史を研究した資料等見るべきものが数多く残っており、これらは後年に刊行された『津久見柑橘史』（昭和18年（1943））の基礎資料となるなど、学術的にも高く評価されている。

「堅徳小学校青い目の人形 人形名：メリー」は、日米関係が悪化した時期、昭和2年（1927）に、国際親善のためにアメリカから日本に13,000体の人形が贈られた際、県内の幼稚園や小学校に贈られた182体のうち現存する4体の1体で、今なお「友情と親善の象徴」として平和の大切さを伝えている。



堅徳小学校青い目の人形 人形名：メリー

古文書は6件（市指定のみ）で、中世文書は解脱閣寺文書が挙げられる。同文書の中には、「津久見」という文字が見える最も古い史料とされる「豊後国臼杵荘地頭代僧西印等寄進状」（建長2年（1250））や、宗麟が「官命」により津久見の住民をキリスト教徒にしたことを証明する「解脱寺古峯寺請証文」（正保3年（1646））等があり、歴史的価値が高いものが多い。近世文書は軸丸文書・戸高家文書・西郷文書が挙げられる。それぞれの文書群は佐伯藩初代藩主の毛利高政から佐伯藩領下の庄屋等に宛てた掟書や触書で構成され、江戸時代初期の佐伯藩領下の市域での農民統制の一端を知る上で貴重な史料である。また高野家文書と江ノ浦区有文書は、いずれも天保年間（1831～1845）から明治時代にかけての文書群で、臼杵藩領下長目浦の小庄屋であった高野家に残る史料からは、臼杵藩領下の長目地区の当時の様子を知ることができる。一方、ほぼ同時代のものが217点と数多く残る江ノ浦区有文書は、佐伯藩領下に所属した江ノ浦地区の史料群で、「年貢取立帳」や「櫛の実売上帳」、「船目録控帳」等が中心である。いずれも浦方の史料としてまとまって残る貴重なものである。

考古資料は1件（市指定のみ）で、平岩遺跡（上青江）から出土した弥生時代後期に比定さ

れる長頸壺である。

②民俗文化財

有形の民俗文化財は1件（市指定のみ）で、深良津の蛭子像は、安永3年（1774）、佐伯藩8代毛利高標たかすえの時、当時親交のあった江戸の柳沢大炊介から献納された9体のうちの1体である。佐伯藩領では前にあった1体と合わせて「十浦蛭子とらえびす」と呼び、それぞれ豊漁を祈る地とした。

無形の民俗文化財は8件（県指定2件、市指定6件）である。県指定は堅浦霜月祭りの芸能と津久見扇子踊りの2件がある。堅浦霜月祭りの芸能は、羽迫神社に伝わる祭礼行事の総称で、神楽・獅子舞・長刀術・棒術が行われ、堅浦古典芸能保存会を中心に地区をあげての行事となっている。津久見扇子踊りは、お盆の時期に踊られる供養踊りとして踊り継がれてきた。その名のとおり、扇子を巧みに操る所作は優美で格調高いもので、舞いの美しさ、華麗さは長く市民の誇りとなっている。



深良津の蛭子像



堅浦霜月祭りの芸能



津久見扇子踊り

市指定は、ジョウヤラ踊り・堅浦正調扇子踊り・高浜のとんど・保戸島加茂神社神幸祭・赤八幡神社神幸祭・平岩獅子舞がある。四浦地区の深良津に伝わるジョウヤラ踊りは、佐伯藩初代藩主の毛利高政が参勤交代で帰ってくることを祝って、歓迎の踊りを披露したことが始まりとされている。堅浦正調扇子踊りは、8月14日に堅浦地区で行われるお盆の供養踊り、四浦高浜のとんどは1月14日の夜に正月に飾った注連縄飾りや松飾りを燃やし、その火にあたって一年の無病息災を祈る行事である。保戸島加茂神社神幸祭は、7月に保戸島夏祭りと併せて行われ、神楽のほか神輿や獅子2頭が島内を巡行し、海に入る勇壮な祭りとして知られる。平岩獅子舞(上青江)は、11月14・15日に近い土曜・日曜日に行われる菅神社の秋の大祭で奉納されている。赤八幡神社



保戸島加茂神社神幸祭

神幸祭は、旧暦9月9日から行われる秋の大祭で、別名「くがつくんちの祭り」とも呼ばれ、市内でも有数の祭礼行事として賑わう。



平岩獅子舞（上青江）



赤八幡神社神幸祭

③記念物

遺跡は1件（市指定のみ）で、大友宗麟公墓である。

この墓はかつて「天徳寺御林」と呼ばれ、樹齢200年を超える杉木立の中に建つ。現在残る仏式の墓は、寛政年間（1789～1801）に宗麟の旧家臣の末裔である臼杵城豊により改葬されたものである。

動物・植物・地質鉱物のうち、植物は9件（国指定1件、県指定2件、市指定6件）である。動物と地質鉱物の指定はない。国指定の尾崎小ミカン先祖木は、樹齢860年を超え、現存する柑橘類としては最高齢樹とされる。昭和18年（1943）に刊行された『津久見柑橘史』によると、天平12年（740）、仁藤仁左衛門という人が松川（上青江）に繁茂していた野生の橘に目をつけ柑橘の栽培研究をしたことが本市の小みかん栽培の始まりとされ、この尾崎小ミカン先祖木は、その後、保元2年（1157）に又四郎が松川から蔵富尾崎に小みかんの苗木を移植したものと伝えられている。現在残るのは9株のみで、この貴重な9株は所有者はじめ関係機関の協力のもと大切に守られている。

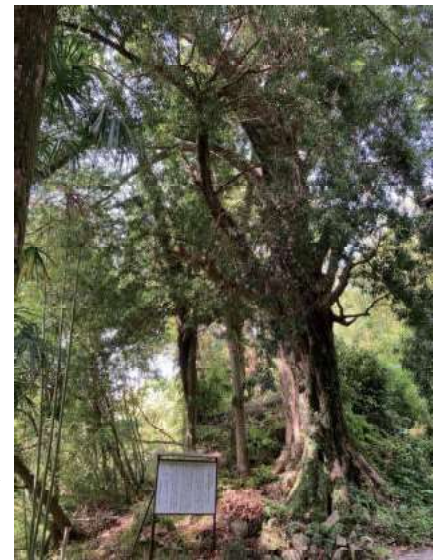
県指定は、姥目のウバメガシと武速神社イロハモミジがある。姥目のウバメガシは市指定の姥目公園ウバメガシとともに本市の代表的なウバメガシの巨木として知られる。

八戸大村武速神社イロハモミジは、現在国内に生育するイロハモミジの中でも上位に入る大きさといわれる。

市指定は、アコウ（赤崎）・姥目公園ウバメガシ・千怒新地ウバメガシ・彦ノ内谷川天満社タブノキ・田尾拝高天満社タブノキ・中田鍛冶屋天満社イヌマキがある。赤崎の天



姥目のウバメガシ（中央町）



中田鍛冶屋天満社イヌマキ

満神社境内に生育するアコウ、姥目公園ウバメガシ、彦ノ内谷川天満社タブノキは大分県特別保護樹木にも指定されている。千怒新地ウバメガシは千怒の国道沿いに並木状に植えられた樹木群で、江戸時代中頃に海岸に沿って築かれた堤防の上に防風林・防潮林として植えられた樹が残ったもので、地域の歴史を後世に伝えていく上で貴重なものである。田尾拝高天満社タブノキは、長年御神木として地域の信仰の対象となっており、中田鍛冶屋天満社イヌマキも地域の人たちにより大切に守られている。



尾崎小ミカン先祖木（上青江蔵富）



武速神社イロハモミジ（八戸大村）



アコウ（赤崎天満神社）



彦ノ内谷川天満社タブノキ

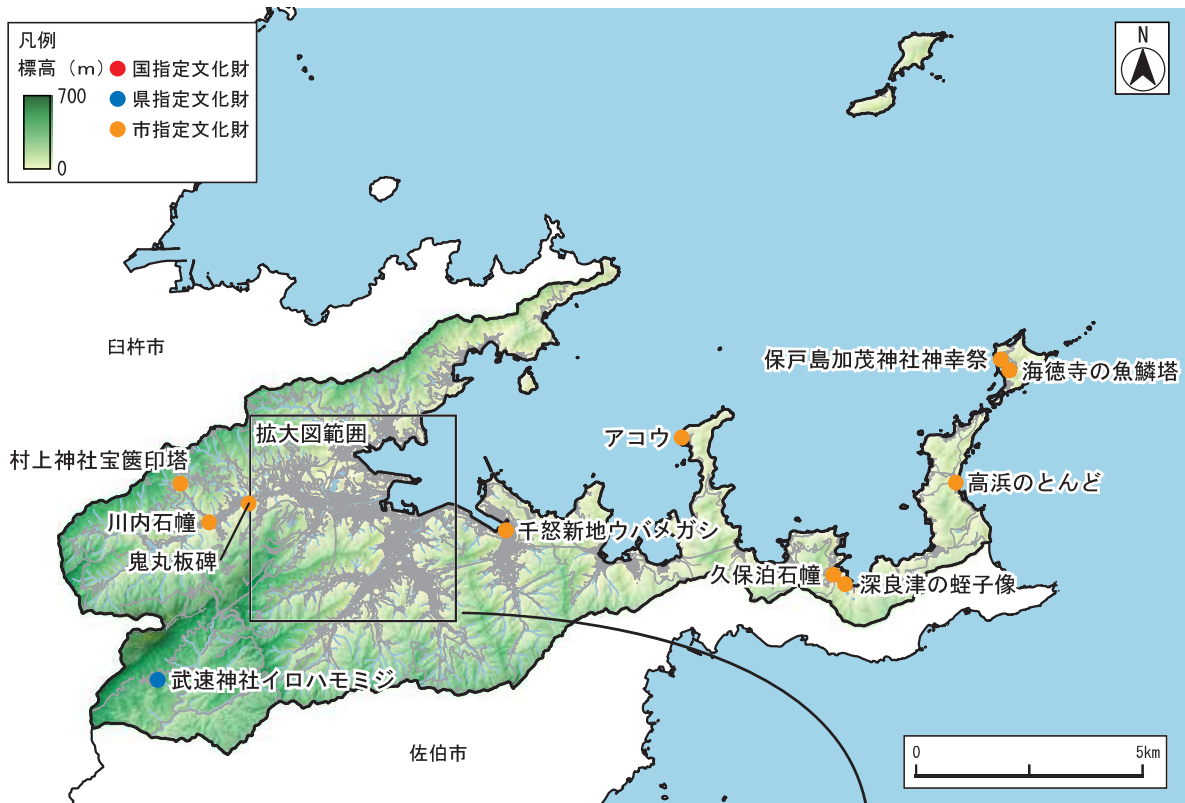


図 21 津久見市の指定等文化財分布図

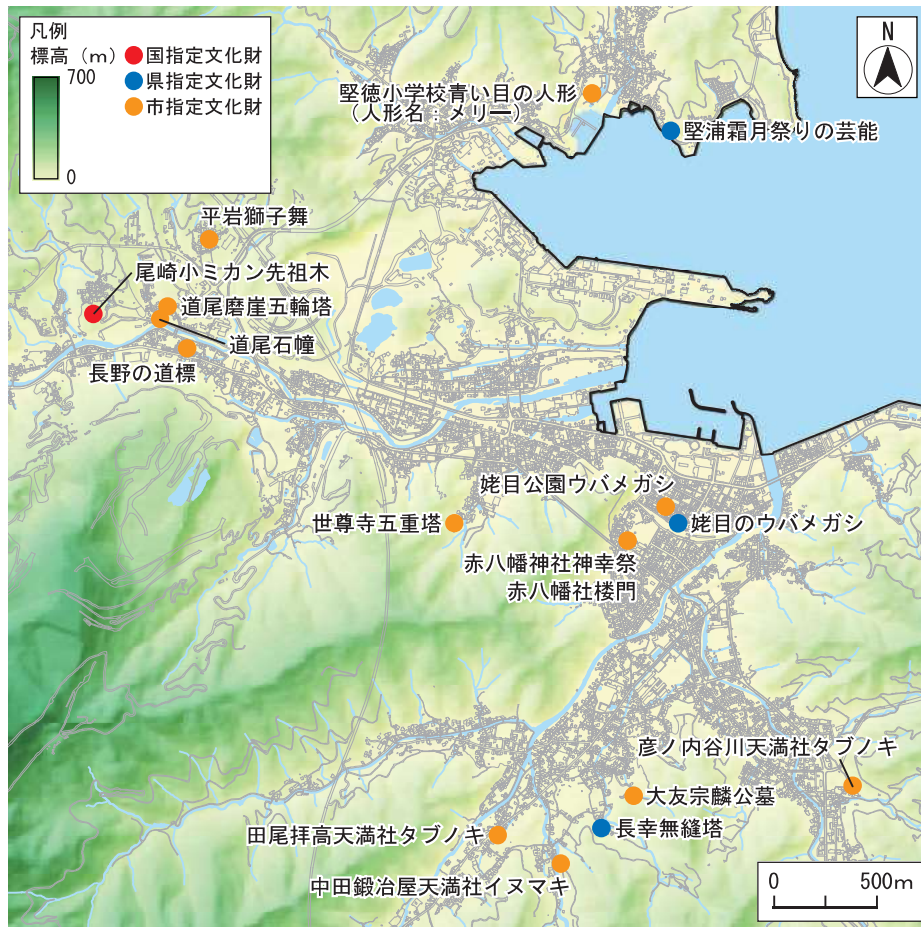


図 22 津久見市の指定等文化財分布図（拡大版）